

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月11日

【評価実施概要】

事業所番号	272701202		
法人名	有限会社サンライズ		
事業所名	グループホームふくち		
所在地 (電話番号)	〒039-0815 青森県三戸郡南部町福田字町頭8番地1 (電話) 0178-60-1313		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 12月 16日	評価確定日	平成 21年 2月 11日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	16,500 ~ 冬期22,500 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	68 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	きむらクリニック、なかざわスポーツクリニック、なかざわ整形外科、むらかみ脳神経外科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>豊かな農村地帯の中、住宅に囲まれた環境にある。事業所は木造2階建ての古民家を改築した建物で、太い柱や梁があり、季節を感じられる中庭には倉庫として使用している蔵があり、落ち付いた雰囲気的环境となっている。利用者一人ひとりに合わせたケアの実施のため、詳細なアセスメントを行い、生活歴や習慣等把握している。また、職員はアセスメントを通して、気付きや見直しなど、情報の共有や振り返りができ、サービスの質の向上へ繋げている。医療機関との協力は、利用者や家族の意向に合わせながら、事業所の掛かりつけ医の訪問診療や必要時は相談できる体制にあり、密な関係を構築している。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>虐待防止については、虐待の事例を含め研修を通して理解を深めている。対応についても職員間で話し合いが行われ、必要時は関係機関への連絡を行うことになっている。災害時の備蓄品については、倉庫に数日間の食料が確保され、近隣の協力が得られる関係にある。また、水分確保の対応がされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は評価の意義を理解しており、職員全員で自己評価に取り組み、振り返りや気づきに繋げている。外部評価の結果は職員で話し合い改善に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、外部評価の結果と改善の取り組みを報告し、意見をもらうようにし問題解決に活かしている。また、事業所の問題解決のみにとらわれず、地域の問題解決のため、市町村や関係機関へ橋渡しの役割を担い、よりよい関係が築かれている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関係項目:外部10, 11)</p> <p>毎月、担当職員から、利用者ごとに生活ぶりや連絡事項等記載したホーム便りを送付し、家族に生活の様子を詳しく伝えている。また、玄関には苦情箱が設置され、意見や要望等伝えやすくする配慮とともに、来訪時、職員から声掛けし、コミュニケーションを図っている。家族からの要望等は、職員間で話し合い、取り組みや改善を図っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的な挨拶のほか、野菜の差し入れや利用者の外出時の受け入れ等、地域の理解協力が得られている。また、地区の祭りに参加したり、保育園と交流したりしている。職員2名はキャラバンメイトとなっており、今後、地域で認知症サポーターの普及活動に取り組む予定である。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、何が大切か職員全員で話し合い、独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングで唱和し、管理者・職員ともに理念を共有し、サービス提供の根底となるようホーム内の見やすい場所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日常的な挨拶のほか、野菜の差し入れや利用者の外出時の受け入れ等、地域の理解協力が得られている。また、地区の祭りに参加したり、保育園と交流したりしている。職員2名はキャラバンメイトとなっており、今後、地域で認知症サポーターの普及活動に取り組む予定である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を全職員で行い、振り返りや気づきに繋がっている。外部評価の結果は、職員間で話し合いを持ち、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、評価結果について報告し意見をもらうようにしている。また、この会議を地域との情報交換の場としても活用しており、関係機関への報告や助言等、地域サービスの向上に活かしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>パンフレットや広報誌を持参し、積極的に情報交換できる機会を作っている。ホームの運営のみではなく、地域全体の問題解決に向け意見交換している。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を利用していないが、勉強会を行い、必要時は対応できる体制にある。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の事例を含め、高齢者虐待防止関連法について勉強会を行い、職員への理解や遵守に向けた取り組みがされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、わかりやすく説明し、理解納得していただいた後、契約を取り交わしている。また、退居時には情報提供を詳細に行っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、担当職員から生活ぶりや連絡事項を記載したホーム便りを送付している。また、必要時は電話や面会時に報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情箱を設置し伝えやすくしている。また意見や要望については、職員で話し合い、取り組みや改善を図っている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>担当職員の変更時は、書面にて詳細に引継ぎを行い、時間をかけ、コミュニケーションをとるようにし、利用者へのダメージを最小限にするよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員間で処遇委員会が設けられており、内部研修の年間計画が立てられている。外部研修にも偏りなく参加することができており、受講後は伝達研修にて職員への周知を図っている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他グループホームと合同で行事を行い、職員間で情報交換ができています。またグループホーム協議会に加盟しており、事業者間で協議しながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>取り急ぎの入居時は、家族と相談しながら利用者にとって担当職員を窓口とし、なじみの関係を構築できるよう支援している。利用者一人ひとりに合わせた対応ができるよう、勤務体制も流動的に対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者本人の思いや喜怒哀楽を共有できるよう暮らしの中から分かち合い、ともに支えあえる関係作りを築いている。また、経験や知識が生活に反映されるような会話がされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式のアセスメントを活用し、その人なりの思いや意向に沿えるよう、日々の生活の中で気付きや出来事を記載し、情報を共有し本人のマップを作成している。困難な場合は、アセスメントを通して職員全員で話し合いをしている。</p>		
0					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度、担当職員がセンター方式でのアセスメントを行い、家族や関係機関と情報交換し介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月ごとに評価し必要時はケアの見直しを行っている。3ヶ月ごとにアセスメントし介護計画の見直しがされている。状態変化時等は、その都度新たな介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族ができないときは受診、外出の援助を行っている。また、訪問診療や必要時の訪問看護を利用している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、利用者・家族に確認し、希望する医療機関に受診できるようにしている。また、事業所の協力医とは訪問診療や必要時の相談ができ、密に関係を結んでいる。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての指針を掲げている。また、看護師を配置し重度化した場合や終末に向け、利用者・家族の意向に合わせ、その都度話し合いを行う体制である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保管場所が決められており取り扱いに配慮している。また、利用者の表情や状況に合わせ、声かけや対応をしている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の目安となる時間が決められているが、利用者に対して無理強いせず、一人ひとりのペースに合わせて対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理や準備、片付け等の食事に関する流れを職員だけでなく、利用者も台所に立つなど、ともに協力しながら進めている。食前には、献立の説明をし、職員も一緒に食事しながら、楽しめる雰囲気にある。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日は決まっているが、利用者の状況や希望にあわせ対応している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の生活歴を把握し、好きなことや得意なことが継続してできるよう場面作りをしながら支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物や職員の外出時に一緒に出かけ、気分転換を図ったり、希望に応じてその都度外出したりして、できるだけ希望に添えるよう対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束について勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は施錠することなく、外に出たい利用者には行動を制止せず、安全に配慮しながら見守りし、一緒に付き添うケアに取り組んでいる。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防立会いの下、日中夜間想定避難訓練を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議や町内会長へ協力の働きかけをおこなっている。また、多少の備蓄品や水の確保がされている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士の指導の下、大まかな摂取量を把握している。また状況に応じた食事形態の配慮や、食事・水分摂取量の記入をし職員が情報を共有している。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>起こり得る感染症について、予防対応マニュアルを作成している。また勉強会を通して、職員も予防対策に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>古民家を改築した作りで、所々に懐かしさがあり、生活感が漂っている。ホールは広いスペースではないが、それぞれが過ごせる空間作りや、窓からは季節が感じられる庭や蔵が見え落ち着いた雰囲気を感じられる。装飾品も、季節感があり、見やすく工夫されている。また、空気の入替えや湿度調整に配慮している。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースで過ごすことが多いせいか、中には寝るための部屋になっている居室がある。無造作な掲示物が目に付いた。</p>		<p>家具などのほかにも、写真や馴染みの物を用意したり、掲示物にも工夫や配慮したりすることで、今以上にその人らしく、居心地の良い空間作りができることを期待したい。</p>

 は、重点項目。